

沖縄戦－日本軍の住民への強制疎開、壕への攻撃、食料の強奪で犠牲が拡大

沖縄戦(1945年3月26日～6月23日)



「私は銃の引き金を引いてしまった。今でも何度も夢に見る。苦しくて、苦しくて。このにおいては間違いなくあの親子のいた場所です」2010年のある日、沖縄本島内のガマで、照屋さん(仮名)は泣き崩れた。90代半ばの元日本兵。言葉にならないような震えた声で「許してくれ、許してくれ」と何度も謝った。

(戦後80年取材班・吉田伸)『沖縄タイムス』
2025/6/19(木)



米軍が本島に上陸した直後の1945年4月2日、住民83人が「集団自決」(強制集団死)した読谷(よみたん)村波平のチビチリガマで5日、遺族会(與那覇徳雄会長)による慰霊祭が開かれた。二度と悲惨な出来事を繰り返

返すまいと約200人が参加し、犠牲者らを追悼すると共に「私たちは次世代に平和のバトンを届ける義務と責任がある」と平和をつなぐ決意を新たにしました。

(『琉球新報』2025/04/05)

住民83人が「集団自決」に追い込まれた沖縄県読谷村の洞窟「チビチリガマ」で5日、慰霊祭があった。戦後80年の今年、生存者の参列はなかつ

た。一方、犠牲者の親族で初めて足を運ぶ戦後世代の姿があった。

(『朝日新聞』2025.4.6)

45年4月1日に米軍が沖縄本島中部の西海岸から上陸し、近くのチビチリガマには住民約140人が逃げ込んだ。「捕虜になれば残虐に殺される」などと日本軍から教えられていた住民

は翌2日に毒薬を注射したり、毛布に火を付けたりして集団自決した。83人が犠牲になり、そのうち約6割が18歳以下の子どもだった。

(『毎日新聞』2025/4/6)